

## 新型肺炎について

### 院長

今回は今世界中で話題になっている新型肺炎について考えてみましょう。

この肺炎はSARS（サーズ）と呼ばれていますが、SARSの意味を知っている人はほとんどいないと思います。少し難しい話になりますが、まずは名称からです。SARSの正式名称は重症急性呼吸器症候群(Severe Acute Respiratory Syndrome)で、その頭文字から取ったもので肺炎という意味は含まれていません。

この病気はいつからあったのでしょうか。同じような肺炎が昨年中国の広東省で見られていました。2003年2月26日に、高熱、痰を伴わない咳、筋肉痛、軽い咽頭痛の症状でベトナムの病院へ入院し、呼吸困難が悪化した患者さんが出ました。香港でも同じような症状の肺炎が認められ、医療従事者を中心に感染が広がり、問題の発端となったことは皆さん御承知のことと思います。その後対応の遅れもあり中国を中心に患者数が増加し、全世界に広がっていったのです。感染が広がるに連れて、この病気の重要性が認識されるようになりました。5月1日現在、発生国は30カ国にもものぼり、患者数は5865人で死亡者は391人と報告されています。WHOによる伝播確認地域はトロント、北京、広東省、香港、内モンゴル自治区、山西省、台湾、天津、ウランバートル、シンガポールで、渡航延期勧告対象地域は香港、広東省、北京、山西省となっています。

症状は38以上の高熱、痰を伴わない咳、息切れと呼吸困難です。また胸部レントゲン写真で肺炎の所見が見られます。他に、頭痛、筋肉のこわばり、食欲不振、全身倦怠感、意識混濁、発疹、下痢などの症状が見られることもあります。この症状だけでは、従来の病気と区別がつかえません。そのため病気の定義が必要になったのです。マスコミで「疑い例」とか「可能性例」と呼ばれるのは、定義によるものです。「疑い例」とは、38度以上の急な発熱と咳、呼吸困難感などの呼吸器症状がある者。そして次のいずれかを満たす者。発症前10日以内に、伝播確認地域へ旅行した者。又は発症前10日以内に、SARSの患者さんを看護・介護するか、同居しているか、患者さんの気道分泌物、体液に触れた者と定義されています。「可能性例」とは「疑い例」であって、胸部レントゲン写真で肺炎の所見を示す者。SARSコロナウイルス検査のひとつ以上で陽性となった者。又は原因不明の呼吸器疾患で死亡し、剖検（解剖）により呼吸困難の解剖所見を示した者と定義されてい

ます。（難しいので少し簡略化しています）

原因についても様々挙げられてきましたが、4月16日WHOはコロナウイルス科に属する新しいウイルスが原因と発表しました。

潜伏期は2～7日とされていますが、多くは3～4日と考えられています。しかし潜伏期が長い例では16日との報告もあります。感染経路は明らかにされていない部分も多いのですが、飛沫感染や接触感染が主と考えられています。この理由は患者さんとの接触が強い医療従事者や家族に多いことから推測されています。空気感染や動物による感染も否定はされていません。また香港のマンションでの集団感染については、未だはっきり原因がつかめていません。

症状は前駆期と呼ばれ高熱や痰を伴わない咳が1～2日、その後呼吸困難の下気道症状期となります。老人や慢性的な病気を持っている人で重症化することが多いとされ、割合は10%程度と考えられています。90%の人は、6～7日の経過で改善していきます。死亡率は4～5%となっていますが、地域によってはより高い死亡率が報告されています。潜伏期が比較的長いこと世界に伝播すること、急性の疾患としては異例に死亡率が高いということが、この病気の大きな問題点なのです。治療法としては現在まで試されたものでは、有効なものはありません。有効な治療法が無い以上、予防することが重要となります。

予防として最も大事なことは、伝播確認地域への不要不急の旅行は取りやめることです。行かなければ感染しない、これが基本です。自分だけは大丈夫という安易な考えは捨てましょう。自分だけで済まないから問題なのです。このような病気の伝染の一つの原因は、文明がもたらしているのです。他の国へ行くのに何ヶ月もかかるのであれば、病気が広がりにくいです。潜伏期の短い病気も同じです。数日以内に移動できる便利さが、病気を広げているのです。これだけ多くの人が出入りしている日本にだけ、病気が広がらないはずはありません。病気が広がることを前提に十分な対応が必要になるのです。病気を理解することが、我々自身を守る一つの方法なのです。対岸の火事と思わないで、しっかり自分のこと社会のことを考えてみましょう。従来から様々なウイルス感染が問題になるたびに、人類はウイルスによって滅亡するという警告が発せられます。患者さんが増える一方で、ベトナムでは終息宣言も出されました。これは社会全体での予防対策の効果と考えられています。手洗い・うがい・マスク等を見直して、病気の予防についてもう一度考えてみましょう。

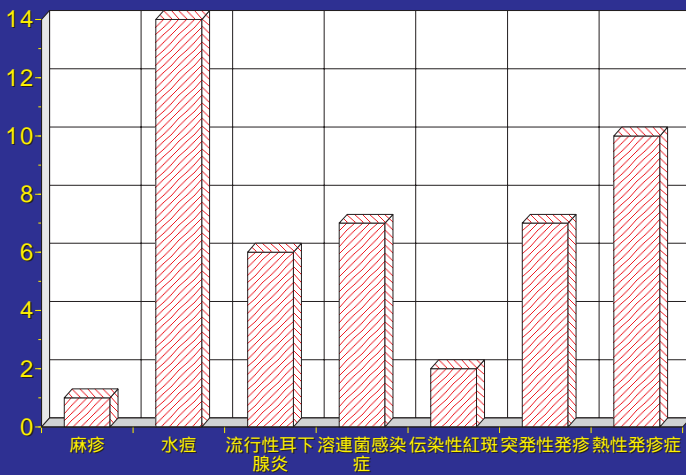
## 読者の広場

先月も30件を超えるメールを戴きました。今月は医療相談など、プライバシーにかかわるものが多く紹介できないのが残念です。宮城野区の毛利さんから「小児科医がやさしく教える赤ちゃん・子どもの病気」の感想を頂いたので紹介します。「(略)忙しい先生あてに、また長々とメールしてしまいました。ここまで読んでいただきありがとうございます。今度伺うときは、先日院内で購入した先生の本を持参しますので、サインをお願いします。毎日、「前に先生に同じことを言われたなあ」などと頷きながら読み進めています。子供の病気の予習復習をしているようで、ある意味楽しいです。我が家にあるいわゆる医学書よりも、ずっとわかりやすく、実用的です。同じ心配をしているお母さんが他にもいると知り、安心しますし。忙しい中、本を執筆して下さったことに感謝します。それでは、長くなりましたが失礼します。」その後本を持参してきたので、サインをしたのは言うまでもありません。先月全国ネットのラジオ放送を紹介しました。その記事が河北新報の4月21日号の朝刊に載りました。題名は「母親の笑顔が一番の薬」です。見つけてくれた大和町の櫻井さんからのメールを紹介します。「こんにちは。大和町の櫻井です。今日朝刊拝見しました。最近新聞でお逢いする機会が増えました。ほんと忙しそうですね。お体大事になさって下さい。(略)また病院にてお世話になります。」この記事は共同通信社から全国の新聞社に配信されました。ラジオに続き、新聞でも全国デビューをはたしました。内容は、次回にでも紹介させていただきます。ありがとうございました。もう一つ投書を紹介します。泉区の伊藤さんから「10周年おめでとうございます！。遅くなりました。すみません！。これからも先生スタッフの皆さん、体に気をつけて頑張ってください！。めざせ100年！」。100年はちょっと無理でしょう。でも体に気をつけて頑張ります。ありがとうございました。もう一つ松尾さんから「是非電話予約システムを導入されてはいかがでしょうか」との投書も頂きました。以前も取り上げましたが、賛否両論です。前向きに考えていきたいと思いますが、御意見をお寄せ下さい。



新型肺炎については、感染経路、経過や予後も明らかになっていません。一面の記事も現時点(2003年5月1日現在)のもので、新しい病気なので、常に最新の情報をチェックすることが重要です。情報破格自治体で提供しているほか厚生労働省や感染症情報センターのHPなどを参考にして下さい。現時点で必要以上に怖がる必要はありませんが、日本での流行も充分考えられます。予防に対して行政や医療機関の対応が重要なことは言うまでもありませんが、個人の意識が最も大切です。新型肺炎が疑われる場合は、直接医療機関を受診するのではなく、まずは電話で問い合わせて下さい。仙台市の問合せ窓口を欄外に示します。

### 4月の感染症の集計



今月も麻疹が1例ありました。麻疹が出るたびにびくびくしますが、麻疹の患者さんが来たときに待合室にいた患者さん呼びだして、未接種であればワクチンを接種しています。これがなかなか大変です。水痘、溶連菌感染症とも、減少傾向

### ラジオ番組と情報紙の紹介

#### 東北放送ラジオ ポリウムワイド

毎月第一木曜日 13:30~13:40 ぐらしのめあて  
生放送でこどもの病気や話題を提供しています。4月から1年間の予定です。お聞きになってみてください。4月3日、5月1日は放送済みです。次回は6月5日です。スタジオ入りのため、御迷惑をおかけする場合がありますが、御協力をお願いします。そのうち生電話で患者さんとお話することも。質問や希望は東北放送まで。

#### リビング仙台 ウェルネス通信

毎月第一土曜日発行分で、子どもの健康を担当します。読者の皆さんからよせられた質問にお答えるコーナーです。4月には幼稚園と感染、5月には鼻出血が掲載されます。質問をお寄せ下さい。

#### 朝日ウイユル コーナー名は未定

6月から始まり、子ども病気についての質問に答えるコーナーになる予定です。乞う御期待!!。

#### 編集後記

新型肺炎という厄介な病気が流行しています。病気という問題以外に、経済にも大きな影響を及ぼさそうです。また施設や都市の封鎖など、流行地では大変な状況です。日本での流行を阻止すること、これは予防に尽きると思います。病気を理解した上で、皆さんもくれぐれも御用心を。



#### 5月のお知らせ

##### ・診療時間変更

5月16日(金)は宮城野区3才健診のため14:00~16:30まで休診。

##### ・栄養育児相談 毎週水曜日

13:30~ 栄養士担当、無料